

■ツツガムシ病にご注意！

ツツガムシ病は、野ネズミなどに寄生するダニの一種であるツツガムシに刺されることで「リケッチア」という病原体が体内に入り発症します。

症状は、ツツガムシに刺されてから5－14日の潜伏期間の後、40℃近い高熱が出て、2日目頃から全身に、2－5mmの発疹が出て、5日目頃には消えます。皮膚にカルデラ状の刺し口が見られ、刺し口付近や全身のリンパ節の腫脹も見られ、重症例では多臓器不全で死亡することもあります。

診断は、発熱・発疹・刺し口の主要3兆候と血清抗体測定。

治療は、テトラサイクリン系の抗菌薬を早期に十分量、必要期間服用。

感染するのは、ツツガムシが生息する河川敷、田畑、山林がほとんど。山菜採りの後、3兆候があったら医療機関へ。

平成23年7月分原稿

はらクリニック院長 原 徹